

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成26年2月28日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 エネルギー科学研究科

職 名 教 授

氏 名 八 尾 健

助 成 の 種 類	平成25年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 国際会議開催助成		
事 業 内 容	国際会議開催 (和文)第13回アジアバイオセラミックス会議 (英文) the 13th Asian Bioceramics Symposium		
開 催 期 間	平成25年12月 4日 ～ 平成25年12月 6日		
開 催 場 所	京都大学・百周年時計台記念館・国際交流ホール		
参 加 者	総 数 109名	内 訳 日本: 90名(国内の大学・研究機関に在籍する外国人研究者 13名を含む), 台湾: 10名, 中国: 3名, ベトナム: 2名, インド: 1名, インドネシア: 1名, シンガポール: 1名, オーストラリア: 1名	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム, 講演要旨集(USB))		
会 計 報 告	事業に要した経費総額		2,465,000 円
	うち当財団からの助成額		1,000,000 円
	その他の資金の出所		シンポジウム参加登録費、懇親会会費
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場使用料	346,500	346,500
	ホームページ開設・運営費(JTB)	429,975	429,975
	プログラム冊子制作費	209,475	209,475
	インク、レポート用紙等文房具	11,373	11,373
	印刷用紙	2,677	2,677
参加受付・参加費決済(JTB)	510,540	0	
講演要旨集(USB)作製費	129,000	0	
懇親会費、アルバイト人件費等	825,460	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団のご支援により、京都大学百周年時計台記念館を会場とすることができました。国内外を問わず多くの研究者にとって、京都大学で研究発表を行うことが、大きな動機付けとなり、多数の参加者を得ることができました。また当シンポジウムのホームページ開設・運営、プログラム冊子作製にも貴財団のご支援を活用させていただくことができました。さらに貴財団から助成をいただいたことにより、シンポジウム全体をスムーズに運営し、開催を成功に導くことができました。学会からも高い評価を得ることができました。心より感謝申し上げます。		

成果の概要

八尾 健

第13回アジアバイオセラミックス会議 (13th Asian BioCeramics Symposium)

開催日時: 2013年12月4日 ~ 12月6日

開催場所: 京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホール



会議終了後の記念撮影

表記国際会議(大会長 八尾健)は12月4日から6日までの3日間、京都大学で開催された。参加総人数は109名で、海外からは、台湾10名、中国3名、ベトナム2名、インド1名、インドネシア1名、シンガポール1名、オーストラリア1名と、Asianと銘打っている通りアジアを中心とする8カ国の研究機関、大学からの参加があった。本学会の参加者のほぼ半数に相当する52名が学生で、その中には日本に留学しているアジア地域の学生の参加も多くあり、全参加者の3分の1近くの32名が外国人という、国際色の強いものであった。

近年の医療材料、バイオテクノロジーの進展に伴い、バイオセラミックス分野も新たな展開を見せており、対象とする分野もスキャホールド、生体模倣材料、骨代替材料、インプラントなどの医科・歯科用材料開発からセラミックスと細胞や組織との相互作用、ドラッグデリバリー、環境調和セラミックス材料分野など多岐に及んでいる。本会議は2001年に第1回が開催されて以来、毎年日本国内とアジア地域で交互に開催され、13回目を迎える今回は第17回生体関連セラミックス討論会との共催で行われた。

初日は八尾健大会長の開会宣言のあと、3名の招待講演があった。九州大学の石川邦夫先生にはポリマー複合材料について、Universitas Gadjah MadaのIka Dewi Ana先生にはリン酸カルシ

ウム生体材料について、また産総研の Xiupeng Wang 先生には癌免疫材料について最新の話題を提供して頂いた。その後、アパタイトおよびリン酸カルシウムセラミックスならびに金属材料の一般セッションが行われた。

2日目は朝9時から2件の招待講演があった。大阪市立大学の横川善之先生にはメソポーラスシリカ上へのタンパク質吸着について、National University of Singapore の Jun Li 先生にはマルチデリバリー用のナノキャリアについて興味深い研究成果を紹介して頂いた。一般講演についてはセラミックスを筆頭に、金属、複合体、セメントと、バイオマテリアルの素材名を冠したセッションが設けられ、主に各材料の調製・合成方法やキャラクタリゼーションに関するの発表が行われた。また2日目には 31 件のポスター発表も行なわれ、口頭発表と同様に発表内容は材料の作製、キャラクタリゼーションから応用に到るまで多岐に渡り、90 分の発表時間中活発な議論が繰り返された。

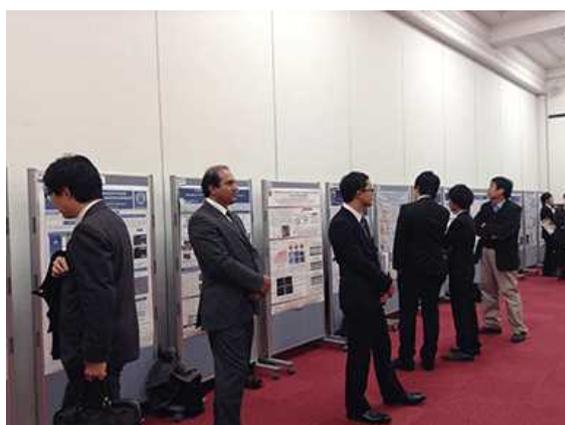
3日目は午前9時から3件の招待講演が行われた。東京医科歯科大学の永井亜希子先生には炭酸アパタイトの最近の進展について、大阪大学の Liang-da Chiu 先生にはラマン分光のバイオミネラルリゼーションへの応用について、そして中国科学院の Jiang Chang 先生には骨代替材料の設計について最近の研究を紹介して頂いた。一般講演はバイオマテリアルの応用面に主眼を置いた骨代替材料や材料と細胞の相互作用のセッション、ならびに種々の手法を用いて合成されるナノ構造を持つバイオマテリアルのセッションが行われ、午後4時に盛況のうちに3日の日程を終えた。

2日目の懇親会では次回の ABC2014 の上海での開催が発表され、大会長となる中国科学院上海セラミックス研究所の Jiang Chang 先生からのプレゼンテーションがあった。また翌日の 12 月 7 日から奈良ホテルで、第33回整形外科バイオマテリアル研究会が開催され、参加者にはバイオマテリアル研究会側での参加費割引の便宜も図られた。

本会議の参加者は様々な専門をもつ研究者で構成されており、本会議において分野を超えた新たな議論や交流がなされたと期待される。また若手研究者や学生の参加者も多く、本会議は当該分野での今後の発展に大きく寄与するものであった。



オーラルセッション



ポスターセッション